



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

ヨシを育て

## 琵琶湖の原風景を守る

琵琶湖開発総合管理所では、施設の維持管理に併せて、琵琶湖の環境に配慮した環境保全の取り組みを行っています。

古くから琵琶湖におけるヨシ群落は、琵琶湖と融和して湖国の自然を象徴する原風景を呈し、そこに住む人々の安らぎを演出してきました。

湖辺のヨシ群落は、多種多様な魚類や鳥類の産卵の場、繁殖・生息の場を提供してきました。また、水質浄化機能にも期待できることやヨシ帯があることによって湖岸の侵食を防ぐなど、人々の暮らしとも深く関わり、それを支えてきました。

琵琶湖開発事業では、洪水対策として土地の低いところにある田畑や住宅を守るため、湖岸堤の設置を行いました。その際、自然環境への影響を極力小さくする配慮として、開発でやむを得ず消失するヨシ帯に対しては、代替措置としてヨシの人工植栽を行い、ヨシ帯の復元に努めてきました。多くのヨシ植栽地区では順調にヨシ帯が形成されたものの、栗見新田地



区では波の影響が強く、琵琶湖開発事業で造成したヨシ帯が衰退してしまいました。そこで、ヨシを植栽してから土壌に定着するまでの間、一時的に波を防ぐため、粗朶消波工を設置しました。

粗朶消波工は、霞ヶ浦や穴道湖などで採用されてきており、ヨシの生育域の拡大や魚類の増加など湖岸環境の保全や改善に効果を発揮している工法です。

粗朶消波工設置・ヨシ植栽は、地域、NPOの方々等と連携して実施し、ある程度復元することができました。平成25年9月の台風18号の影響で、壊滅状態となったもののヨシ帯は再び復元しつつあります。

引き続き、地域の方々と交流を深めながら、琵琶湖の水辺環境の保全、再生に取り組んでいきたいと思っています。

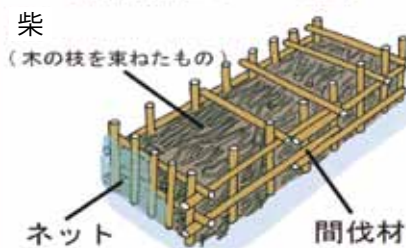


【粗朶消波工設置状況】

### 【ヨシの由来】

ヨシとアシは同じものですが、「アシ」が「悪し」に通じるため、縁起をかついで「よし」と呼んだのが定着しました。

### <粗朶消波工イメージ図>



粗朶消波工（そだしょうはこう）は、波からヨシを守り、ヨシ帯の再生を目指し採用されました。

粗朶消波工の材料には、間伐材などを利用しており、森林の整備にも役立っています。